

村櫛小学校地域公開日 (第74期算数教育研究発表会)

令和5年10月27日(金)

研究主題 **明日を拓く算数学習** (5年次)
 ~どの子ども主体的に学び続ける単元を構想し、明日へつなげる活動~

◎研究授業

2校時 9:25~10:10

年・組	校時	単元名	授業者	場所
3-1	2	分数	村松 道子	3-1教室
6-1	2	比	古屋 晃子	6-1教室

3校時 10:25~11:10

年・組	校時	単元名	授業者	場所
1-1	3	3つのかずのたしざんひきざん	鍋田 歩美	1-1教室
4-1	3	面積	栗野 高史	4-1教室

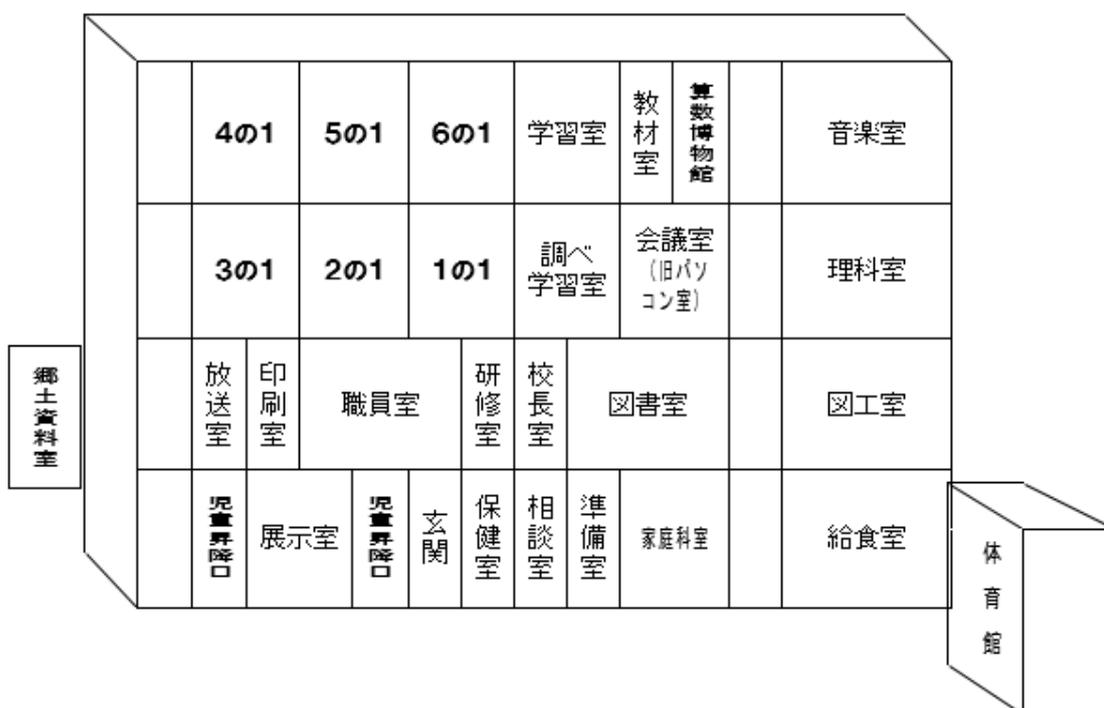
4校時 11:20~12:05

年・組	校時	単元名	授業者	場所
2-1	4	かけ算九九づくり	和田 明日美	2-1教室
5-1	4	単位量あたりの大きさ	永井 正敏	5-1教室

【御指導いただく先生】

1~3年：浜松市教育委員会指導課 宮原 愛 様
 4~6年：静岡大学教育学部教授 松元 新一郎 様

◎ 教室・会場案内



令和5年度浜松市立村櫛小学校研究全体構想図

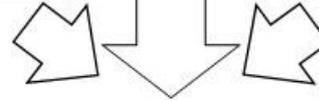
〈研究の経緯〉
 ○昭和25年より74年間続けられている。
 ○前研究「探究する算数学習」では、主体的な活動を通して、算数のよさを十分に感じながら、分かる喜びや学ぶ楽しさを味わう算数学習を目指してきた。
 ○研究の内容や名称は変われど、算数科の本質を追究することで、子供の豊かな人間形成を目指していくという営みは、普遍的な算数教育の価値として、時代を超えて受け継がれている。

〈社会的背景〉
 ○先行き不透明な時代
 「子供たちの65%は将来、今は存在していない職業に就くだろう」
 (Cathy、2015)

算数教育をさらに前へ進めていく

〈学習指導要領改訂より〉
 ○主体的・対話的で深い学びの推進
 ・数学的な見方・考え方
 ・数学的活動の充実
 ・数学的に考える資質・能力の育成

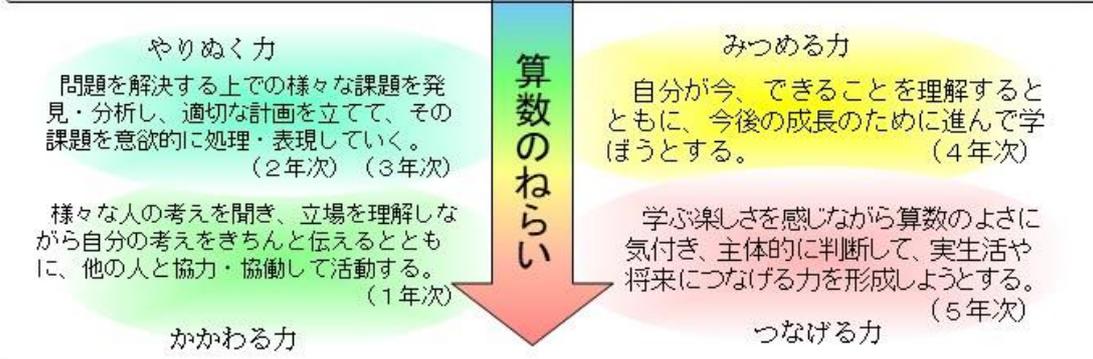
先行き不透明な時代に立ち向かう



算数科として必要な資質・能力を育成する

算数科において、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成する。

〈研究主題〉 明日を拓く算数学習



〈目指す子供像〉
 ○問題に対し、文脈や不明瞭な用語、隠れた前提、未習事項等を理解し、活用できそうなツールはないかを考えながら、問題解決の見通しを立てる。
 ○目的に応じて情報を適切に捉え、言葉、図、数、表、式、グラフを用いて表現する。
 ○交流の際、多様な考えの中から、根拠を明確にししながら、考えをより明確に決定し合ったり、合意形成をし合ったりする。
 ○創出したツールや算数のよさを実感し、新たな学習や日常生活に生かそうとする。

〈学校教育目標〉夢をもって すこやかに たくましく 生きる子

本校の研究は、昭和25年より74年間続いています。研究の内容や名称は変わってきていますが、算数科の本質を追求することで、子供の豊かな人間形成を目指していくという営みは、普遍的な算数教育の価値として、受け継がれてきています。私たちは、これからも算数教育をさらに前へ進めていきたいと考えています。

また、これからの社会は、先行き不透明な時代に突入するといわれています。その時代に立ち向かう力の育成が必要です。さらに、学習指導要領の改訂に伴い、主体的・対話的で深い学びの授業を推進し、算数科として必要な資質・能力を育成していきたいと考えています。

これらの観点から、私たちがこれから子供たちにつけたい力を「算数科において、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育成すること」とし、令和元年度から研究主題を「明日(あした)を拓く算数学習」として、研究を進めてきました。

本研究では、やりぬく力・かかわる力・みつめる力・つなげる力の4つの力をつけていきます。今年度は5年次にあたります。これら4つの力をつけることを通して算数のねらいに迫り、構想図にある目指す子供像に近付けるようにしていきたいと考えます。そして、学校教育目標である「夢をもって すこやかに たくましく 生きる子」の具現化につながるのではないかと考えています。

浜松市立村櫛小学校 研究構想図(5年次)

〈研究主題〉

明日を拓く算数学習

～どの子ども主体的に学び続ける単元を構想し、明日へつなげる活動～

つなげる力

学ぶ楽しさを感じながら算数のよさに気づき、主体的に判断して、実生活や将来につなげる力を形成しようとする。

手立て

①単元構想の工夫

- a 基本的な知識及び技能の習得
- b 習得した知識及び技能を活用、探究
以上の場面を適切に設ける

②主体的に学ぶための工夫

- a 効果的な表現をする場の設定する
- b 活動に適した学習形態を用意する
- c 自分の考えをもたせる支援をする

単元構想 表現力 学びに向かう力

③自己の成長を見つめるための 振り返りの工夫

- a 自分が主体的に学んでいたか振り返りカードを活用する
- b 次への意欲や新たな問い・課題について振り返る

④次時へのつながりをもたせる ための工夫

- ・ 課題を明確にし意欲の喚起を行う

⑤日常生活につなげる工夫

- ・ 生活に結び付く課題を提示する

算数のねらい

【本年度の重点】

今年度は「明日を拓く算数学習」の最終年を迎え、今までの研究を振り返りながら、授業改善を進めてきました。5年次である今年度は、サブテーマを「どの子ども主体的に学び続ける単元を構想し、明日へつなげる活動」とし、つなげる力に重点を置き、研究を進めてきました。本校では、つながりを「単元内のつながり」「次時へのつながり」「これまでの学習とのつながり」「生活とのつながり」「他教科とのつながり」と捉え、上記の5つの手立てを行ってきました。また、授業の中で友達に説明する時間を設け、表現する力の育成も目指しました。これらの手立てを通して、子供自身が学ぶ楽しさを感じながら算数のよさに気づき、将来や実生活につなげる姿を目指します。

【授業のみどころ】

<p>1年 3つのかずのたしざんひきざん 【A 数と計算】 鍋田 歩美</p> <p>1 本時の目標（3／4時間） どんぐりの数の変化を、ブロックを操作しながら考える活動を通して、3つの数を加減混合の1つの式に表せるということに気付き、左から順に計算することができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活科で行ったどんぐり拾いの活動を想起させたり、絵を見ながら自由に話をさせたりすることで、問題場面に興味をもたせたい。 ○ 前時までの学習を想起させて、たし算とひき算が混ざっていても、1つの式に表すことができることに気付かせたい。 	<p>2年 かけ算九九づくり 【A 数と計算】 和田 明日美</p> <p>1 本時の目標（14／15時間） チョコレートの数をまとまりに分けて考えることを通して、九九を活用することの便利さに気付き、乗法を使った式に表すことができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日常でも起こり得る場面を想定して課題を設定することで興味・関心をもたせ、取り組ませたい。 ○ 授業の導入時に前時の復習を行うことで、今までの学習との違いを意識し、既習を活かして学習に取り組ませたい。
<p>3年 分数 【A 数と計算】 村松 道子</p> <p>1 本時の目標（6／10時間） 絞ったジュースの量の合計を求める活動を通して、単位分数のいくつ分で考えればよいことに気付き、同分母分数のたし算の計算をすることができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 絞ったジュースを合わせるという、日常生活でもありそうな場面を設定して、取り組ませたい。 ○ 前時までに活用した線分図、テープ図、L升図を用意し、いつでも使えるようにする。 ○ 前時までのツール「単位分数のいくつ分で考えればよい」に帰着させ、もっと大きな分数の加法や、減法への意欲をもたせたい。 	<p>4年 面積 【B 図形】 栗野 高史</p> <p>1 本時の目標（11／12時間） 部屋の広さを求め、比べる活動を通して、長方形を組み合わせた図形の面積は、区切ったり移動させたりして既習の長方形や正方形にすれば求められることに気付き、求めることができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題を提示する際、前時までとの違いを感じさせ、解決の見通しをもたせてから取り組ませたい。 ○ 全体交流では、多様な考えの共通点を見付けながら課題解決の仕方を考えることで、「知っている形（長方形）にすれば求められる」ことに気付かせたい。
<p>5年 単位量あたりの大きさ 【C 変化と関係】 永井 正敏</p> <p>1 本時の目標（6／12時間） どちらが速いか考える活動を通して、単位量あたりの大きさで比べられることに気付き、速さを比べることができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 速さについても、前時までの学習を生かし、一方をそろえたり、単位量あたりの大きさを求めたりすることで比べられることに気付かせたい。 ○ 前時までに活用した、複線図や表を用意し、数量をそろえる視点を与える。 	<p>6年 比 【C 変化と関係】 古屋 晃子</p> <p>1 本時の目標（6／9時間） おいしいドレッシング（酢：サラダ油＝2：3）を作ろうとすることを通して、等しい比の性質をもとに、2つの比から部分の数量を求める仕方を理解し、求めることができる。</p> <p>2 つなげる力育成のための手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 酢の量を出すには、等しい比を作る方法を使うやり方や、サラダ油に比の値をかけて出すやり方があることを確認するため、自分の考えをもたせて交流させたい。 ○ 前時までに学習した、比の性質や比の値を求める方法を使えばよいことに気付かせる。